

とうきょう すくわくプログラム活動報告書①

幼稚園番号	2107414
園名	富士学院幼稚園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

木とふれあう

<テーマの設定理由>

当園は東京の西部に位置しており、豊かな自然に恵まれています。その中でも今回は木にフォーカスし、五感とひびきあう感性を育むことを目指しました。

2. 活動スケジュール

令和6年6月6日 木育ワークショップ

端材自由製作、かんなくすプール、桧の積み木遊び

令和6年7月22日 檜原おもちゃの森美術館への園外保育

木の香りや触感を感じ、木のおもちゃで遊ぶ

令和6年10月7日 木育ワークショップ

端材自由製作、ぶんぶんこま作り、桧の楽器あそび

令和6年11月7日 木育ワークショップ

端材自由製作

その他：月1回のペースで近隣の公園へ行き、木の花や葉の変化を観察しました

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

活動のために準備したもの：端材、ポスカ、紙ヤスリ、絵具等

活動のために支出したもの：園外保育に係るガソリン代、食事代等

子どもたちの様子等（端材のワークショップ）：まず目の前にある端材の山に圧倒されていました。ただ、いざ製作が始まると、無言で集中する子どもや友達と相談しながら製作する子ども等があり、様々でした。中には「先生、ここどうやればいい？」と聞いてくる子どもがいましたが、オープンクエッションを心がけ、子どもたちの発想力を引き出すことを意識しました。

子どもたちの様子等（園外保育等）：檜原おもちゃの森美術館では入館と同時に館内にあふれる檜の香りに子どもたちの歓声があがりました。その後は館内の木のおもちゃを各々で楽しみ、「こっちのおもちゃはさっきのよりザラザラしている。木でも色々あるんだね！」等の声がありました。近隣の公園では時期により「前来たときは蕾だったのに花が咲いてる！」「秋だけ赤い葉っぱもあれば緑のまんまの葉っぱもあるんだね」と自然の変化を感じることができました。



4. 振り返り（振り返りによって得た先生の気づき）

- ・子どもたちはチャレンジ精神が旺盛で、初めてのことで一生涯懸命取り組んでおり、すごいと感じました。
- ・端材のワークショップでは、一人一人の個性が溢れており、どの作品も素晴らしかったです。
- ・子どもたちは大人が思っている以上に、小さな変化に気づくことができることを感じ、その時に生じる「なぜ？どうして？」を大切にしたいと感じました。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書②

幼稚園番号	2107414
園名	富士学院幼稚園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

体を動かす

<テーマの設定理由>

当園では、遊びながら体を動かすこと楽しむ運動活動を定期的に行っています。体操・HIP HOP ダンスは毎週、サッカー教室は年に2回実施しています。その他には当園の職員が定期的に運動指導、サッカーの指導をしており、運動を通じて自ら挑戦し、達成する楽しさを経験したり、身体を動かしながら表現力を高めることを目指しています。

2. 活動スケジュール

体操教室：火曜日

HIP HOP ダンス：水曜日

東京都サッカー協会によるサッカー教室：令和6年6月10日

※令和6年9月6日は雨天のため中止

当園職員によるサッカー指導、運動遊び：令和6年9月19日、令和6年10月4日

令和6年12月6日、令和7年2月7日

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

活動のために準備したもの：跳び箱、ローター板、サッカーゴールネット、リバウンドネット、ピプス、スポーツリバーシ、なわとび等

子どもたちの様子等：講師の先生やサポートする担任、フリーの職員は一方的に教え込むのではなく、「どうすれば上手くできるようになるかな?」「上手な子は何ができていかな?」と声かけを行うことで、子どもたちにできるだけ考える時間を与えるようにしました。結果、少し時間がかかることもありましたが、できたときには「先生できたよ!」「先生見て!」と嬉しそうにしていました。小さな成功体験の積み重ね、それを褒めることにより、自己肯定感を育むことにつながったと感じています。

また、活動の中では勝敗を決めるゲーム等があり、事前に作戦時間を設けました。子どもたちなりに、どうすれば勝てるかということについて真剣に考えており、中には論理的な思考を持ち、分かりやすく説明をしている子どももあり、感心しました。勝敗が決まるゲーム等では、勝つことが全てではないが、勝つと嬉しいし、負けると悔しいと素直に感じるようで、一生懸命取り組んでいる姿が見られました。



4. 振り返り（振り返りによって得た先生の気づき）

- ・跳び箱や鉄棒は初めからできる子どもが少なかったため、少し心配しましたが、コツを掴むと、積極的に取り組む姿勢が見られ、どんどん上達していきました。
- ・声掛けでは、一方的に教え込むのではなく、「どうすれば上手くできるようになるかな?」「上手な子は何ができていかな?」と声かけを行うことで、子どもたちにできるだけ考える時間を与えるようにしました。
- ・チーム競技では、仲間と一緒に自分たちで作戦を立て、勝つために必死に取り組んでいる姿が印象的でした。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書③

幼稚園番号	2107414
園名	富士学院幼稚園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光を感じる

<テーマの設定理由>

まず、子どもたちにとって身近で分かりやすいものをテーマに取り上げたいと考えました。その上で、職員間での話し合いにより挙げたのが「光と空気」であり、東京大学サイエンスコミュニケーションサークルCASTに講師を依頼し、承諾を得ました。「光」というテーマを通じて、子どもたちの「なぜ」という疑問を解決しながら、探究心を育むことを目的とし、本テーマの実施を決定しました。

2. 活動スケジュール

- ① 令和6年9月24日 10時～10時45分
- ② 令和7年2月17日 10時～10時45分

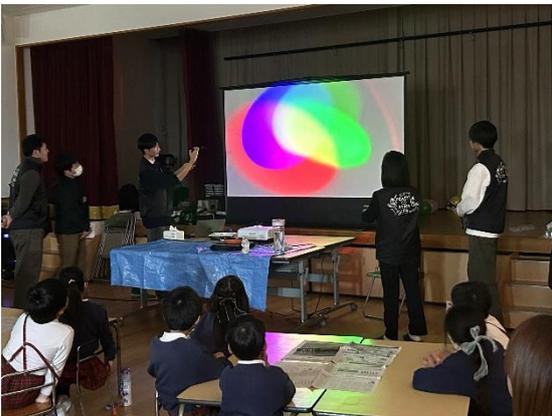
3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

活動のために準備したもの：実験・製作に係る道具は東京大学サイエンスコミュニケーションサークル CAST が準備（委託料に含む）

子どもたちの様子等：実験内容は偏光板（偏光板アート、万華鏡工作、ブラックウォール）、ライト系実験（三原色ライト、虹トレー、レイリー散乱）、ペーパークロマトグラフィー工作等であり、科学用語で説明すると理解ができないため、分かりやすい身近なもので例えながら講義をしていただきました。中でも、クイズ形式を多くとってくれたので、子どもたちは積極的に手を挙げたり、発言をしていました。また、クイズの予想が外れると、「なんで？」「不思議！」と声を上げていました。製作では少し細かい作業があったため、担任やフリー職員がサポートに入り、完成の手助けを行いました。成果物（万華鏡）が完成した際は、「きれい！」「色が合わさると、違う色になる！」等の声が上がっており、子どもたちの知識・関心の幅を広げることができました。



4. 振り返り（振り返りによって得た先生の気づき）

- ・難しいテーマも含まれていたため、どのような反応を示すか心配でしたが、講師の先生が進行を工夫してくれたため、最後まで集中し、活動を終えることができました。
- ・「なんで？」「すごい！」というような子どもたちの驚いている姿を見て、子どもたちがとても生き生きしていたので、通常の保育の中でも、新しい情報を提供できるようにしたいと感じました。
- ・製作では細かい作業もあったため、「先生やってー」と言う子どもがいましたが、手伝いをする程度に留め、最後まで自分の力で作り上げた結果、大きな達成感を味わってもらうことができました。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書④

幼稚園番号	2107414
園名	富士学院幼稚園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

空気を感じる

<テーマの設定理由>

まず、子どもたちにとって身近で分かりやすいものをテーマに取り上げたいと考えました。その上で、職員間での話し合いにより挙げたのが「光と空気」であり、東京大学サイエンスコミュニケーションサークルCASTに講師を依頼し、承諾を得ました。「空気」というテーマを通じて、子どもたちの「なぜ」という疑問を解決しながら、探究心を育むことを目的とし、本テーマの実施を決定しました。

2. 活動スケジュール

- ① 令和6年9月24日 10時45分～11時30分
- ② 令和7年2月17日 10時45分～11時30分

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

活動のために準備したもの：実験・製作に係る道具は東京大学サイエンスコミュニケーションサークル CAST が準備（委託料を含む）

子どもたちの様子等：実験内容は空気砲（プラコップ空気砲の工作、ビニールプールで作る巨大空気砲）、ブLOWERを用いた実験（ブLOWERアクション、メルヘンフラワー、エア UFO）、減圧実験（缶潰し、マグデブルグ半球）等であり、科学用語で説明すると理解ができないため、分かりやすい身近なもので例えながら講義をしていただきました。中でも、クイズ形式を多くとってくれたので、子どもたちは積極的に手を挙げたり、発言をしていました。また、クイズの予想が外れると、「なんで?」「不思議!」と声を上げていました。製作では少し細かい作業があったため、担任やフリー職員がサポートに入り、完成の手助けを行いました。成果物（プラコップ空気砲）が完成した際は、「小さいのに威力がある!」「煙を入れると空気の流れがよくわかる!」等の声が上がっており、子どもたちの知識・関心の幅を広げることができました。



4. 振り返り（振り返りによって得た先生の気づき）

- ・難しいテーマも含まれていたため、どのような反応を示すか心配でしたが、講師の先生が進行を工夫してくれたため、最後まで集中し、活動を終えることができました。
- ・「なんで?」「すごい!」というような子どもたちの驚いている姿を見て、子どもたちがとても生き生きしていたので、通常の保育の中でも、新しい情報を提供できるようにしたいと感じました。
- ・空気砲等の分かりやすい実験について、子どもたちの食いつきがとても良かったです。通常の保育でも視覚的に分かりやすく伝えることが大切だと感じました。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書⑤

幼稚園番号	2107414
園名	富士学院幼稚園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

英語遊び

<テーマの設定理由>

当園では外部講師による英語遊びを月に1回行っており、ゲームや音楽を活用し、英語を聞いたり発語したりすることで、楽しみながら英語に興味を持てるようにしています。今年度も引き続き英語遊びを通じて、異文化に触れ、興味関心の幅を世界に広げていくことを目的とし、活動テーマに取り入れました。

2. 活動スケジュール

毎月1回

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

活動のための環境設定：ゲームやリズム運動を多く取り入れているため、保育室に椅子だけを配置し、動きやすい環境を整えた。

子どもたちの様子等：活動の内容としては、あいさつ、天気、あいさつの歌、季節の単語、TPR（全身反応教授法）、歌、アルファベットの名前と音、単語と表現、アクティビティ、絵本の読み聞かせ、まとめ、さようならの歌、終わりのあいさつ等を実施しました。初めは恥ずかしそうにし、声が小さかったりしましたが、ゲームやリズムあそびを多く取り入れているため、楽しみながら英語あそびをすることができました。後半になると、講師からの問いかけに対し、英語で回答できるようになり、「very good!」と言われるととても嬉しそうにしていました。



4. 振り返り（振り返りによって得た先生の気づき）

- ・あまり得意ではない子に対しては、担任やフリー職員がそばで一緒に歌ったりすることで、親しみやすい環境を整えることを意識しました。
- ・ゲームやリズムあそびは子どもたちが積極的に参加しやすいことを改めて実感したので、通常の保育でもゲーム等を取り入れて楽しい保育をしたいと感じました。
- ・登園の際に「Hallo!」とあいさつをしてくれる子どももあり、少しずつ英語が習慣化しているように感じました。